

ここがスゴイ!

▶ 現職教員編

立命館大学教職大学院

「オンライン受講」で勤務を続けながら学べる

～最新の教育理論を学び、スキルアップを図りたい全国の現職教員のニーズに応える～

立命館大学教職大学院では、2023年度から現職教員を対象にした「オンライン受講」を実施している。遠方在住者や日々の業務に忙しい現職教員でも、夕方からの授業をリモートで受講し、3年間で修了できる。オンライン受講の学びの実感とはどのようなものか。講義が終わった教室で、現職教員の受講生をリモートで結び話を聞いた。

まとめ/宮本猛 写真/池田薫

「オンライン受講」で叶った大学院への進学

伊田: 大学院に進学しようと思ったきっかけと、立命館大学教職大学院を選んだ理由をお聞かせ下さい。

畑: 教員になって19年目になりますが、場当たりの対応や経験に頼る状況が続いていました。教育学部出身でなかったこともあり、一度専門的に学び直したいと思っていたところ、立命館大学の教職大学院であれば、オンラインで講義が受けられると知り、これならば勤務を続けながら学ぶことが可能だと思い進学を決めました。

谷村: 勤務先の校長から管理職試験の受験を勧められたのがきっかけです。今後教頭になれば学んでいる時間はないだろうし、スキルアップするならこの機会しかない。オンラインで受講できることの他、教職大学院のホームページに掲載されている先生方の『教員コラム』が興味深く、教師観にもしっかりしたものを感じ、こんな先生方から学びたいと思ったからです。あと、国際教育コースでIB教育（国際バカロレア）を学べることも他の教職大学院にはない魅力だと思っています。

北野: これまで自身の授業実践を大学の研究者の力を借りて理論化し、論文執筆などに携わった経験から、自分

も今後は若手教師の実践を後押しできるような立場になれるよう、学びを深めたいとずっと思っていました。いろんな大学院の情報を集めました。退職しないといけなかったり、関心のある専門領域の先生がいないなど条件が合わず。私も教員コラムを読んで、そこに書かれていたことが大学院で学びたかったことと合致し、オンライン受講も可能でしたので、進学するならこしかならない!

澤: オンラインの講義を受けてみて、どういう感想を持ちましたか?

畑: まるで教室にいるかのような感覚で、全く違和感がないです。素晴らしいシステムだと思います。

北野: 私もこれほどまでに臨場感のある講義を受けられるとは思っていませんでした。通学時間がかからない分、翌日の授業準備や他のことに時間を有効活用でき、大きなメリットを感じています。学びに没頭するのが楽しく、気分転換にもなっています。

谷村: 全国の様々な地域からの進学者と学び合えるのも、オンライン受講の優れている点だと思います。私が勤務している高知県以外の学校や私学の様子も知ることができて視野が広がりました。

大学院の講義が行われる教室で、現職教員院生の谷村先生と畑先生はオンラインで、北野先生は対面で参加し、授業でグループワークをする時と同じ形式で取材は行われた。

教員コラム

教職大学院の教員による大好評エッセイはこちら!



教室にいるような感覚で講義を受けられる

「オンライン受講」の素晴らしさを実感



伊田勝憲 教授

立命館大学大学院
教職研究科（研究分野：
臨床教育学・教育心理学）



澤 由紀子 准教授

立命館大学大学院
教職研究科
（実務家教員）



畑 浩資先生

教育方法・学習科学コース
1回生（教員歴18年）
愛知県内の私立中高一貫校勤務（理科）



谷村正一郎先生

国際教育コース1回生
（教員歴20年）
高知県内の公立小学校勤務



北野ゆき先生

国際教育コース1回生
（教員歴20年）
大阪府内の公立小学校勤務

勤務と学びの両立には周囲の理解が不可欠

伊田: 大学院での学びを業務にどう生かしておられるか、勤務との両立についても、お聞かせ下さい。

畑: 大学院で様々な教育理論を学ぶことによって、生徒を理解する視点が変わり、同僚に対しても理論に裏付けされた説得力ある提案や意見ができるようになったと思います。

谷村: 自分は研究主任という立場でもあるので、大学院で学んだことを生かした研究テーマを提案しています。最近では「本質的な問い」や「単元を貫く問い」をテーマに取り組んでいます。勤務との両立については、管理職の理解が大きいと思います。いつも講義の始まる時間になると、校長や教頭が早く送り出してくれます。また、家に帰るのが遅い時間になるので、家族の理解も大事です。周りに恵まれ支えられているからこそ、こうして大学院で学べていると感謝しています。

澤: ストレートマスターの院生たちと一緒に学ぶことについては、どのように感じていますか?

北野: 自分とは違う校種・教科が専門の院生と交流することで、熱意を感じたり違った視点をたくさん学べたりするのでとても楽しいです。

畑: 意見交換していても「すごく勉強しているな」と感じますし、年齢差を感じたことはありません。新しいことを積極的に学ぼうとする姿勢にも刺激を受けています。

彼らと学び合い高め合った日々は、今後の教師人生に間違いなくプラスになると考えています。

もっと知りたい! 「オンライン受講」

ストレスのない臨場感ある環境で安心して学んでもらいたい

オンデマンドや一方通行の配信ではなく、ライブ配信のハイフレックス授業にこだわったのは、クラスのメンバーがオンタイムでつながることを大切にしていたからです。オンライン受講生には臨場感を感じてもらうことを大切にしています。例えばホワイトボードの文字が見にくい時には、サポートスタッフがiPadでその部分を撮影・配信したり、音が聞こえづらくならぬよう、高性能マイクやスピーカーを用意し、設置場所を工夫したり、とにかくストレスを感じることなく受講できるよう試行錯誤しました。その結果、現在は教室にいるのと同じような環境の講義を提供できていると思います。

対面、オンライン、どちらの受講生もお互いを意識した授業運営を心がけ、受講生にとってハイフレックス授業がICT教育の実践となれば嬉しいですね。



田中 博 准教授

遠隔授業推進委員長

